

2 中学校用「道普請」 指導例

平成24年2月、奈良教育大学ユネスコクラブの学生たちが、平成23年9月の紀伊半島大水害で大きな被害を受けた奈良県十津川村を訪れ、ボランティアとして世界遺産である熊野古道の道普請を行った。本資料は、この道普請に参加した学生を主人公に、十津川村の人々との出会いや道普請の作業を通して、十津川村の人々の温かさや村を愛する思い、古から十津川村の人々が道普請により参詣道を大切に守り受け継いできた思いに触れ、郷土との関わりについて考えを深めていった姿を描いている。

「何でこんなことに参加したのか」と思っていた主人公だったが、道普請の作業を丁寧に行い、十津川村に「また来たい」と思うようになる。主人公を変えていったものは何だったのか。「また来たい」と思う理由は何なのか。これらについて話し合うことを通して、郷土を守り育ててきた人々に思いを寄せ、尊敬や感謝の気持ちをもつとともに、郷土に対する深い愛情に共感させたい。また、主人公たちが作った道は、どこへ続いていく道なのか—こうした問いについて自由に話し合わせ、これからは自分たちが郷土の伝統と文化を受け継ぎ、発展させていこうとする意欲とともに郷土を愛する心情を育みたい。

- ◆ **主題名** 郷土と私 指導内容 4-(8)
- 資料名** 道普請 (奈良県郷土資料 県教育委員会)

◆ ねらい

十津川村の人々との出会いや道普請の作業を通して、十津川村の人々の温かさや村を愛する思い、古から十津川村の人々が道普請により参詣道を守り受け継いできた思いに触れ、郷土との関わりについて考えを深めていく主人公について話し合うことにより、郷土と自分との関わりについて見つめ直し、郷土を愛する心情を高める。

◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、地域の人々が、共同で作業などについて話し合う。	○ 地域の人々が、共同で作業などを行っていることはありますか。 ・クリーンデーには、みんなで公園の清掃などを行っている。 ・盆踊りは、いつも自治会の人々が準備してくれているよ。	・身近な人々の郷土への関わり方について想起させ、本時の主題への導入とする。 ・紀伊半島大水害の被災状況等を振り返ることから、本時の資料への導入とすることもできるが、地域や生徒の実情に配慮すること。	
展 開	2、資料「道普請」を読んで話し合う。	○ 旧五百瀬 <small>いもぜ</small> 小学校で話を聞かせてくれたおじさんが、主人公にとってとてもまぶしかったのはなぜでしょう。 ・子どもたちへも伝えようとする村を愛する思いの強さやエネルギー	・村のおばあさんの笑顔やおじさんの言葉、主人公が教員を志望していることなどに着目させ、村を愛し、これからも守っていこうとする情熱や子どもたちにも伝	

展		<p>ギーを感じたから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱っぽく子どもたちの姿を語るおじさんへのあこがれのため。 <p>○ 出発前にはあまり乗り気でなかった愛と、道普請の作業を一つ一ついねいに行う愛とを比べ、愛を変えたものは何だったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村を愛し、これからも守っていこうとするおじさんたちと出会って感じた情熱。 ・道普請をすることで村の人々が大切に受け継いできた伝統に気付き、自分も引き継ぐことができた喜び。 <p>◎ 愛たちが、「また来たい」と思うのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の人たちの温かさに触れ、十津川村が好きになったから。 ・道普請により成長した自分に気付いたから。 ・十津川村もまた、自分のふるさとだと思うようになったから。 	<p>えようとするひたむきさに打たれた主人公の心情を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道普請をしているとき、主人公が「わたしたちも頑張っている」と心の中でつぶやいた意味について考えさせるなど、古来、人々が連続と受け継いできた伝統を実感し、今を生きる自分たちが引き継いでいくことの大切さに気付いた主人公に共感させる。 	
開		<p>◎ 愛たちが、「また来たい」と思うのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の人たちの温かさに触れ、十津川村が好きになったから。 ・道普請により成長した自分に気付いたから。 ・十津川村もまた、自分のふるさとだと思うようになったから。 <p>○ 愛たちがつくった道は、どこへ続いていく道なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの十津川村の発展。 ・伝統を大切に受け継いできた人々の心。 ・ふるさとで生きていく自分たちの未来。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村の人たちの出会いや道普請の体験を通して、主人公が感じたことや考えたことを基に、郷土を守り育ててきた人々への尊敬や感謝、郷土に対する愛情の広がりや深まりを考えさせる。 ・ワークシートに書き込むことを通してじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な問いであり、自由に考えを話し合わせるようにし、郷土と自分との関わりについて見つめ直し、郷土の伝統と文化を受け継ぎ、発展させていこうとする意欲とともに郷土を愛する心情を高めるようにする。 	ワークシート ワークシート
終末	3、「心のノート 中学校」を開き、読んだり書き込んだりする。	○ 「心のノート」122、123ページを開きましょう。	・「心のノート」を活用したり、郷土のために力を尽くしている人々や指導者自身の郷土に対する思いを話したりして、郷土を愛する心情をさらに温めるようにする。	「心のノート」

※「心のノート」は、次のURLよりダウンロードできます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm